






奈良先端大 学際融合領域研究棟 2号館等外壁改修その他工事

図 面 リ ス ト	
図面番号	図 面 名 称
L-01	表紙・図面リスト
特-01	特記仕様書（1）
特-02	特記仕様書（2）
A-01	案内図・配置図
A-02	改修工事概要 外壁補修図・数量表
A-03	学際融合領域研究棟 2号館（VBL棟） 東立面図
A-04	学際融合領域研究棟 2号館（VBL棟） 南立面図
A-05	学際融合領域研究棟 2号館（VBL棟） 北立面図
A-06	学際融合領域研究棟 2号館（VBL棟） 断面図
A-07	学際融合領域研究棟 2号館（VBL棟） 詳細図
A-08	動物実験施設（N棟） 北立面図
A-09	動物実験施設（N棟） 東立面図
A-10	動物実験施設（N棟） 西立面図
A-11	動物実験施設（N棟） 外構図・詳細図

訂正	令和 年 月 日	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学					工事名	奈良先端大 学際融合領域研究棟 2号館等外壁改修その他工事	年度	令和7年9月
		課長	課長補佐	係長	専門職員	担当者			縮 尺	図面番号
							図面名称	表紙・図面リスト	No Scale	L-01

奈良先端大 学際融合領域研究棟2号館等外壁改修その他工事

I 工 事 概 要

1. 工事場所 奈良県生駒市高山町8916番地の5（奈良先端科学技術大学院大学生駒団地構内）

2. 完成期限 令和 8 年 3 月 24 日（火）

3. 建物概要

建物名称	学際融合領域研究棟2号館(VBL棟)	動物実験施設(N棟)
工種	改修	改修
構造	R	R
階数	3	2
建築基準法による	建築面積 (㎡) 558	300
	延べ面積 (㎡) 1,512	541
消防法施行令別表第一の区分	(7) 項	(7) 項
改修面積 (㎡)	1,512	541
備考		

4. 工事種目

印の付いたものが対象工事種目

建物別及び壁外	工 事 種 別	工 事 種 別
工 事 種 目	学際融合領域研究棟2号館(VBL棟)	動物実験施設(N棟)
○ 2 仮設工事	一式	一式
○ 3 防水改修工事	一式	一式
○ 4 外壁改修工事	一式	一式
・ 5 建具改修工事	一式	一式
・ 6 内装改修工事		
○ 7 塗装改修工事	一式	一式
・ 8 耐震改修工事		
○ 9 環境配慮改修工事	一式	一式
・ プール改修工事		
・ 電気設備工事		
・ 機械設備工事		
・		

5. 指定部分 ・ 無 ・ 有 対象部分（指定部分工期 令和 年 月 日（曜日））

6. 概成工期 ・ 無 ・ 有 令和 年 月 日（曜日） (1.2.1) [1.2.1]

II 工 事 仕 様

1. 共通仕様

(1) 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学工事請負等契約細則の工事請負契約基準、現場説明書、図面 11 枚及び本特記仕様書 2 枚によるほか、下記仕様書等のうち、○印の付いたものを適用する。

○ 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)(以下「標準仕様書」という。)

○ 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)(以下「改修標準仕様書」という。)

○ 文部科学省建築工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科仕様書」という。)

○ 文部科学省建築改修工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科改修仕様書」という。)

○ 工事写真撮影要領(令和5年版)

・ 建築物解体工事共通仕様書(令和4年版)

・ 建築工事標準詳細図(令和4年版)

(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、それぞれの特記仕様書を適用する。―― なお、電気設備工事の特記仕様書は () による。―― 機械設備工事の特記仕様書は () による。――

2. 特記仕様

(1) 本特記仕様書の表記

1) 項目は、○印の付いたものを適用する。

2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。

○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

○印と※印の付いた場合は、共に適用する。

3) 特記事項に記載の () 内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の [] 内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の (()) 内表示番号は、文科仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の [[]] 内表示番号は、文科改修仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

4) 印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(平成12年法律第100号)に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(令和4年2月25日変更閣議決定)」に定める特定調達物品における判断の基準(特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断の基準)を満たすものを示す。

2 各章共通事項

○ 適用区分

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。

・ 風圧力 風速 (V0= 32 m/s)

・ 地表面粗度区分 (・ I ・ II ○ III ・ IV)

・ 積雪荷重 平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域 別表(32) 30cm (奈良県)

(1.3.3~4) [1.3.3~4]

この工事現場に下記いずれかの資格を有する電気保安技術者を選任する。

項 目 名	電気保安技術者
1 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	○
2 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○
3 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	○
4 旧電気工事技術者検定規定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	○
5 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	○
6 第1種電気工事士の資格を有する者	○
7 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○
8 第2種電気工事士以上の資格を有する者	○
9 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工學以外の工學に関する学科において一般電気工學（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者	・

工事用電力を構外から引き込む場合は、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。

○ 施工条件

この工事現場では、次の施工条件による。(1.3.5) [1.3.5]

現場説明書 別紙-2による。

○ 発生材の処理等

(1) 引渡しを要するもの (1.3.11) [1.3.12]

1) 品名 なし

引渡し先

集積場所

(2) 特別管理産業廃棄物

1) 品名 なし

処理方法

(3) 現場において再利用を図るもの

1) 品名 なし

使用箇所

(4) 再資源化を図るもの

1) 品名 なし

受入場所

2) 品名

(5) その他発生材については、標準仕様書に従い、適切に処理する。

○ 環境への配慮

(1.4.1) [1.4.1]

建築物内部に使用する材料等とは、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。

① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗料は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。

② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。

③ 接着剤は、可塑性（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-n-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑性剤を除く）が添加されていない材料を使用する。

④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

(1.4.2) [1.4.2]

1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。

2) 製品名が記載された材料は、当該製品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承認を受ける。

3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

4) 本工事に使用する材料のうち、(5)に指定する材料の製造所等は、以下に指定する事項を満たすものとし、その証明となる資料を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承認を受けた場合はこの限りでない。

・ 品質及び性能に関する試験データを整備していること。

・ 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。

・ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。

・ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。

・ 安定的な供給が可能であること。

・ 販売、保守等の営業体制を整えていること。

(5) 製造所等に関する資料の提出を求める材料

(1.4.4) [1.4.4]

材料名	備考

・ 材料の検査等

石綿含有建材の調査

事前調査

工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。

・ 貸与資料 ()

・ 分析による石綿含有建材の調査

分析対象 アクテノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トシモライト

分析方法

材料名	定性分析方法 (JIS A 1481-1) または (JIS A 1481-2)	定量分析方法 (JIS A 1481-3) 、 (JIS A 1481-4) または (JIS A 1481-5)
タイル下地モルタル	・ (箇所)	・ (箇所)
外壁吹付材	・ (箇所)	・ (箇所)
	・ (箇所)	・ (箇所)

サンプル数 1箇所あたり3サンプル

採取箇所

・ 図示による

・ 監督員の指示による (1.5.2) [1.7.2]

適用工事種別	技能検定の種別
タイル工事	タイル張り技能士

(1.5.4) [1.7.4]

標準仕様書に定めがあるもの以外で、次に示す工程については、施工の確認及び報告を監督職員に行うものとする。

施工の確認及び報告を行う工程

備 考

外壁調査完了時

(外壁補修施工前に全面打診調査をおこない、外壁調査報告書を監督職員に提出すること)

(1.5.5) [1.7.5]

標準仕様書等に定めがあるもの以外で、次に示す施工については、監督職員の検査を受ける。

外壁改修工事完了後（足場解体前）

(1.5.7) [1.7.7]

標準仕様書等に定めがあるもの以外で、次に示す工事段階及び事項については、監督職員の立会いを受ける。

施工の立会いを行う工程

備 考

外壁調査完了時

(1.7.1~3) [1.9.1~3]

次の図書を監督職員に提出する。また、それらを本工事事務所に使用するための権利については、発注者に依頼する。

1) 完成図

○CADデータ（電子納品）及び電子データ（PDF形式）

○A3版原図 1 部

・ A1版原図 1 部

○A3複写図（製本） 1 部

・ A1複写図（製本） 1 部

2) 保全に関する資料

○電子データ（PDF形式）

○A4ファイル綴じ 1 部

3) 工事写真（「工事写真撮影要領」による。）

○原本（電子媒体）

○アルバム（紙又は電子媒体） 1 部

4) 完成写真

工事完成時に次の写真を撮影し、監督職員に提出する。

撮影部位及び箇所数	形式・サイズ	提出セット数	画素数及び画質等	撮影者
外観正面 (2) 箇所	○電子データ（JPEGフルカラー・圧縮率1/4程度）	1		
	・ カラー印刷紙キャビネ判			
	○カラー印刷紙キャビネ判 A4アルバム綴じ（注）	1	4500×3000ピクセル以上で画像補正を行ったもの	建築完成写真の撮影実績がある者で、監督職員が承諾する撮影業者
	・ カラー印刷紙キャビネ判			
上記と異なる外部： 6箇所	○電子データ（JPEGフルカラー・圧縮率1/4程度）	1		
内部： 0箇所	・ カラー印刷紙キャビネ判			
各改修面	○カラー印刷紙キャビネ判 A4アルバム綴じ（注）	1		
	・ 電子データ（JPEGフルカラー）		1280×960ピクセル以上かつ撮影したデジタルカメラの設定のうち最高の画質	任意
外部： 箇所	・ カラー印刷紙キャビネ判			
内部： 箇所	A4アルバム綴じ			
程度				

(注) のアルバムは併せて作成する。

5) 施工図・施工計画書・完成図書一式

○電子データ（PDF形式）

○A4ファイル綴じ 1 部

電子納品は次の規定に従うものとする。

1) 貸与する設計図のCADデータは以下による。

・ 著作者名： 奈良先端科学技術大学院大学

・ ファイル形式： 完成図：DXF又はJWW形式又はUPDF形式 工事写真：JPEG形式

・ 貸与条件： 貸与するCADデータの本工事における施工図又は完成図の作成のため以外に使用しないこと。

2 仮設工事

○ 足場等

[2.2.1] [表 2.2.1]

「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の手すり据置方式又は3の手すり先行専用足場方式により行う。

外部足場

○設置する (設置範囲) (図示による) ()

・ 設置しない

防護シート

○設置する (設置範囲) (図示による) ()

・ 設置しない

内部足場

・ 設置する (※脚立、足場板等) ()

○設置しない

・ 材料、撤去材等の運搬方法

種別 (・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種) ()

C種：利用可能なエレベーター (・ 図示による) ()

D種：利用可能な階段 (・ 図示による) ()

○ 既存部分の養生

養生方法等 [2.3.1]

○ 既存部分

養生方法 (※ビニルシート、合板) ()

・ 既存家具、既存設備等

養生方法 (※ビニルシート等) ()

・ 既存ブラインド、カーテン等

養生方法 (・ ビニルシート等) ()

・ 保管場所 (・ 図示による) ()

・ 固定された備品、机、ロッカー等の移動

・ 図示による

既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。万一損傷を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

3 防水改修工事

・ 施工数量調査

調査範囲 [1.6.2, 3]

・ 図示による

調査方法

・ 図示による

既存部分の破壊を行った場合の補修方法

・ 図示による

調査報告書（提出部数 1部） ()

○ 既存下地の処理

既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 [3.2.6]

・ 図示による

POS工法又はUPOS工法（機械的固定方法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置 ※改修標準仕様書3.2.6(4) (g) (a) ①~③による

設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸壇の取付け部、塔置出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理

※監督職員と協議する

○図示による

高圧水洗に使用する高圧水洗機：性能：水圧10MPa以上

入隅の補修及び処理：既存入隅に面取りしてある場合、不良部は既存と同材で補修すること。尚、不良部が広範囲にわたる場合は、撤去の上、ケレン清掃すること。

○ 塗膜防水

新設防水層の種別 [3.6.2, 3]

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料	高日射反射率防水 [5]	備考
			種類	使用量	
・ POX	※X-1 ・ X-2 ・ X-1H ・ X-2H		・ 主材料の製造所の仕様	※主材料の製造所の仕様	・ 脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
○ 4X	※X-1 ・ X-2 ・ X-1H ・ X-2H	階段、蹴上、隅場、立上りH100	○主材料の製造所の仕様	※主材料の製造所の仕様	・ 脱気装置 ・ 設ける ○設けない

○ 下地調整は不陸をポリマーセメントモルタルで平滑に補修する

塗膜範囲の20%を見込む

○ シーリング

シーリング改修工法の種類 [3.1.4] [3.7.2, 3, 7, 8]

・ シーリング充填工法

○シーリング再充填工法

・ 拡張シーリング再充填工法

シーリング材の種類、施工箇所

下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による。

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
図示	PS-2、MS-2、PU-2

接着性試験

○簡易接着性試験

・ 引張接着性試験

訂正 令和 . 年 月 日

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学

課長 課長補佐 係長 専門職員 担当者

工事名 奈良先端大 学際融合領域研究棟2号館等外壁改修その他工事

年度 令和7年9月

図面名称 特記仕様書（1）

縮尺 図面番号

No Scale 特-01

4外壁改修工事共通事項

4-3外壁改修工事モルタル塗り仕上げ外壁

○施工数量調査

調査範囲
○外壁改修範囲
・図示による
調査内容
ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び
雨水の流出の有無を調査する。
モルタル塗仕上げ及びひび割れ部については、ひび割れ部分を表面に表示し、また欠損部の
形状寸法等を調査する。
コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。
塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に
表示する。また、既存塗膜と新規塗材との適合性を確認する。
既存部分の破壊を行った場合の補修方法
・図示による
調査報告書（提出部数）○1部
○その他

○ひび割れ部改修工法

○欠損部改修工法

○浮き部改修工法

4-4外壁改修工事
タイル張り仕上げ外壁

○既存タイル張りの撤去
○範囲は施工前調査による 撤去範囲は下地モルタルまで

○ひび割れ部改修工法

○欠損部改修工法

○浮き部改修工法

○目地改修工法

○タイルの形状、寸法等

○製作タイル

○下地調整

○錆止め塗料塗り

○塗装

○石綿含有建材の
事前調査結果

○石綿含有建材の
除去工事

○耐候性塗料塗り (DP)
指定色
学際融合領域研究棟 2号館 (VBL棟)：そひ色 (そひいろ) N-744
動物実験施設 (N棟)：木賊色 (とくさいろ) N-852
※大日本インキ「日本の伝統色」第6版
つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗 (EP-G) メタリック
製造所・製品名
エスケー化研 水性ファインメタリック 同等品
インターナショナルペイント 水性メタルコート シルバー 同等品
※外壁塗装を行う範囲は下地調整材 (0-1) 塗を全面行うこと。
つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (コンクリート面、モルタル面、せっこうボード面、
その他ボード面) の塗替えの場合のしき止め
※改修標準仕様書表 7.9.1 の工程 1 の下塗りをしき止めシーラーとする

○石綿含有建材の処理
除去対象範囲
・図示による
・外壁吹付け材撤去部
除去工法
※改修標準仕様書 9.1.3 (2) (7) による
・湿潤化、集塵により行う
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・埋立処分 (管理型最終処分場)
・中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設)

訂正 令和 年 月 日

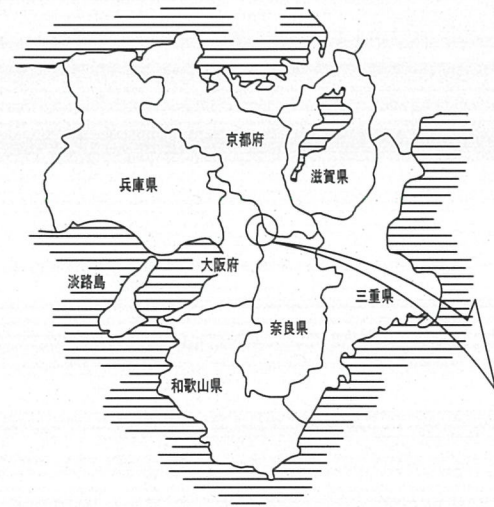
国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学






工事名 奈良先端大 学際融合領域研究棟 2号館等外壁改修その他工事

令和 7 年 9 月

図面名称 特記仕様書 (2)

No Scale 特-02



訂正 令和 年 月 日	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学					工事名	年度
	課長	課長補佐	係長	専門職員	担当者	奈良先端大 学際融合領域研究棟2号館等外壁改修その他工事	令和7年9月
						図面名称	縮尺 図面番号
						案内図・配置図	1:2,800 A-01

改修工事概要

工事建物	工事項目	工事内容
■ 学際融合領域研究棟2号館（VBL棟） 外壁改修	1. 外壁の改修	外壁：ひび割れ補修【コンクリート面、タイル面】 外壁：浮き・欠損 補修【コンクリート面、タイル面】 外壁：エフロレッセンス補修【コンクリート面、タイル面】
	2. 塗膜防水塗替え改修	搬入口床：既存塗膜防水 高圧洗浄、下地調整（ポリマーセメントモルタルにより平滑に補修）の上 防滑性ウレタン系塗膜防水（X-2工法）新設
	3. シーリング打替え改修	アルミ製建具周囲・鋼製建具周囲・打継目地・誘発目地・化粧目地・コンクリート鉄部取合い部、シーリング打ち替え
	4. 鋼製部の塗装替え改修	既存 鋼製建具 下地調整（RB種）の上DP塗装 建具調整
	5. 外壁の塗装替え改修	既存 コンクリート打放しの上 FUE（メタリック塗装）、高圧洗浄、下地調整材（C-1）塗の上 EP-G（メタリック塗装）
	6. その他	笠木めくり点検・アルミパネルめくり点検 アルミ・鋼製建具 ガラス面：イオンデブリット除去（ウロコ落とし） アルミ建具：建具枠清掃 縦軸回転窓：パッキン交換、3段引違い窓：無目カバーめくり清掃
■ 動物実験施設（N棟） 外壁改修	1. 外壁の改修	外壁：ひび割れ補修【コンクリート面、タイル面】 外壁：浮き・欠損 補修【コンクリート面、タイル面】 外壁：エフロレッセンス補修【コンクリート面、タイル面】
	2. 塗膜防水塗替え改修	搬入口床：既存塗膜防水 高圧洗浄、下地調整（ポリマーセメントモルタルにより平滑に補修）の上 防滑性ウレタン系塗膜防水（X-2工法）新設
	3. シーリング打替え改修	アルミ製建具周囲・鋼製建具周囲・打継目地・誘発目地・化粧目地・コンクリート鉄部取合い部、シーリング打ち替え
	4. 鋼製部の塗装替え改修	既存 鋼製建具・鉄骨階段・搬入口床台・渡り廊下鉄部 下地調整（RB種）の上DP塗装
	5. 外壁の塗装替え改修	既存 コンクリート打放しの上 FUE（メタリック塗装）、高圧洗浄、下地調整材（C-1）塗の上 EP-G（メタリック塗装）
	6. その他	樹木強剪定：樹高8m枝張4m幹径0.3m 樹高6m枝張3m幹径0.3m×2本 アルミ・鋼製建具 ガラス面：イオンデブリット除去（ウロコ落とし） アルミ建具：建具枠清掃 鋼製建具：建具調整 渡り廊下屋根材：ポリカーボネート一時撤去・再生処理・復旧

外壁補修数量表（参考数量）

部位・工法		ひび割れ補修 塗装面	ひび割れ補修 タイル面下	浮き（欠損） 補修 塗装面	エフロ補修	外壁タイル補修							シーリング打ち替え										
						タイル張替工法																	
						平面 グレー	平面 ラスター	平面 着色	役物 グレー <div>2面</div>	役物 ラスター（横線入り） <div>2面</div>	役物 ラスター（縦線入り） 水切りタイプ <div>2面</div>	アンカー ピン コンクリート部分 エポキシ樹脂 注入工法	ポリアリレート シーリング 25×20	ポリアリレート シーリング 15×20	ポリアリレート シーリング 5×10	ポリアリレート シーリング 5×7	変成シリコン シーリング 15×10	変成シリコン シーリング 10×10	ポリウレタン シーリング 25×20				
単位		m	m	m ²	個所	m ²			m			m ²	m										
学際融合領域研究棟2号館（VBL棟）	東	0	7.9	0	5	2.3	0.5	0	0	0	0	0.3	47.5	16.9	22.6	97.5	91.8	3.8	0				
	南	0	2.8	0	0	2.9	4.1	0	0	0	0	3.4	70.7	24.7	24.9	79.0	179	0	0				
	北	0	4.4	0	5	0.1	0.1	0	0	0.1	0	0.1	70.7	24.7	24.9	48.3	241	0	4.8				
動物実験施設（N棟）	北	0	0	0	0	0.4	0.1	0	0	0	0	0.5	0	0	33.9	64.7	56.1	0	0.6				
	東	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25.0	44.9	43.7	0	0.9				
	西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29.5	48.2	67.0	0.5	0.9				
		0	15.1	0	0	5.7	4.8	0	0	0	0	5.3	188.9	66.3	160.8	382.6	678.6	4.3	7.2				






外壁補修図

ひび割れ補修（塗装面）	ひび割れ補修（タイル面下）	浮部補修（塗装面）	欠損部 補修（タイル面）	浮き（欠損） 露筋部補修（塗装面）	エフロ補修	浮き部 補修（タイル面）	浮き部 補修（タイル面）
数量合計						(1か所あたりの浮き面積1m ² 以上の か所で適用する。)	(1か所あたりの浮き面積1m ² 未満 のか所で適用する。)
<p>高圧洗浄（10Mpa） コンクリートひび割れ部エポキシ樹脂注入 下地調整塗材C1（吹付面）の上 パターンあわせ後、仕上塗材塗り</p>	<p>カッター切り タイル（下地も共）撤去 コンクリートひび割れ部エポキシ樹脂注入 タイル張り（下地も共） 高圧洗浄（10Mpa）</p> <p>※全タイル面は高圧洗浄を行うこと。</p>	<p>高圧洗浄（10Mpa） アンカーピンコンクリートエポキシ樹脂注入 下地調整塗材C1（吹付面）の上 パターンあわせ後、仕上塗材塗り</p>	<p>カッター切り タイル（下地も共）撤去 タイル張り（下地も共）の上 高圧洗浄（10Mpa）</p> <p>※コンクリート面にひび割れがあった場合は ひび割れ補修（タイル面）による ※全タイル面は高圧洗浄を行うこと。</p>	<p>高圧洗浄（10Mpa） 浮部撤去（さび止め塗料） エポキシ樹脂も塗り塗の上 パターンあわせ後、仕上塗材塗り</p>	<p>高圧洗浄（10Mpa）の上 弱酸性洗剤にて洗浄</p> <p>※全タイル面は高圧洗浄を行うこと。</p>	<p>カッター切り タイル（下地も共）撤去 タイル張り（下地も共）の上 高圧洗浄（10Mpa）</p>	<p>高圧洗浄（10Mpa）の上 アンカーピンコンクリートエポキシ樹脂注入 49本/m²</p>

訂正 令和 年 月 日

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学

課長 課長補佐 係長 専門職員 担当者



工事名 奈良先端 学際融合領域研究棟2号館等外壁改修その他工事

年度 令和7年9月

図面名称 改修工事概要 外壁補修図・数量表

縮尺 1:100 図面番号 A-02

A・B・C・E部
既存 50角磁器質タイル張り。鋼製建具上部は水切りタイル貼り(2面役物ラスター)
改修 外壁補修(ひび割れ・欠損・浮き部補修)の上、
高圧洗浄(10MPa)

D・J部(アルミ笠木)
既存 アルミ 嵌合式
改修 笠木を一時撤去して、下地コンクリートの
点検を行う。
ひび割れや浸水等の異常がある場合は、
処置を行い、処理完了後、笠木を復旧する。

F部(アルミサッシ 縦軸回転窓)
既存 W1,220×H1,292×10箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
気密パッキン交換
ガラス外面 イオンデポジット除去(ウロコ落とし)
建具清掃(枠共)

F部(アルミサッシ オープン窓)
既存 W1,220×H1,292×1箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
建具清掃(枠共)

H部(アルミパネル)
既存 アルミフレーム下地の上、アルミパネル
改修 アルミパネルを一時撤去して、
下地コンクリートの点検を行う。
ひび割れや浸水等の異常がある場合は、
処置を行う。処理完了後、アルミパネルを
清拭し、復旧する。

K部(アルミサッシ 縦軸回転窓)
既存 W1,220×H1,290×4箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
気密パッキン交換
ガラス外面 イオンデポジット除去(ウロコ落とし)
建具清掃(枠共)

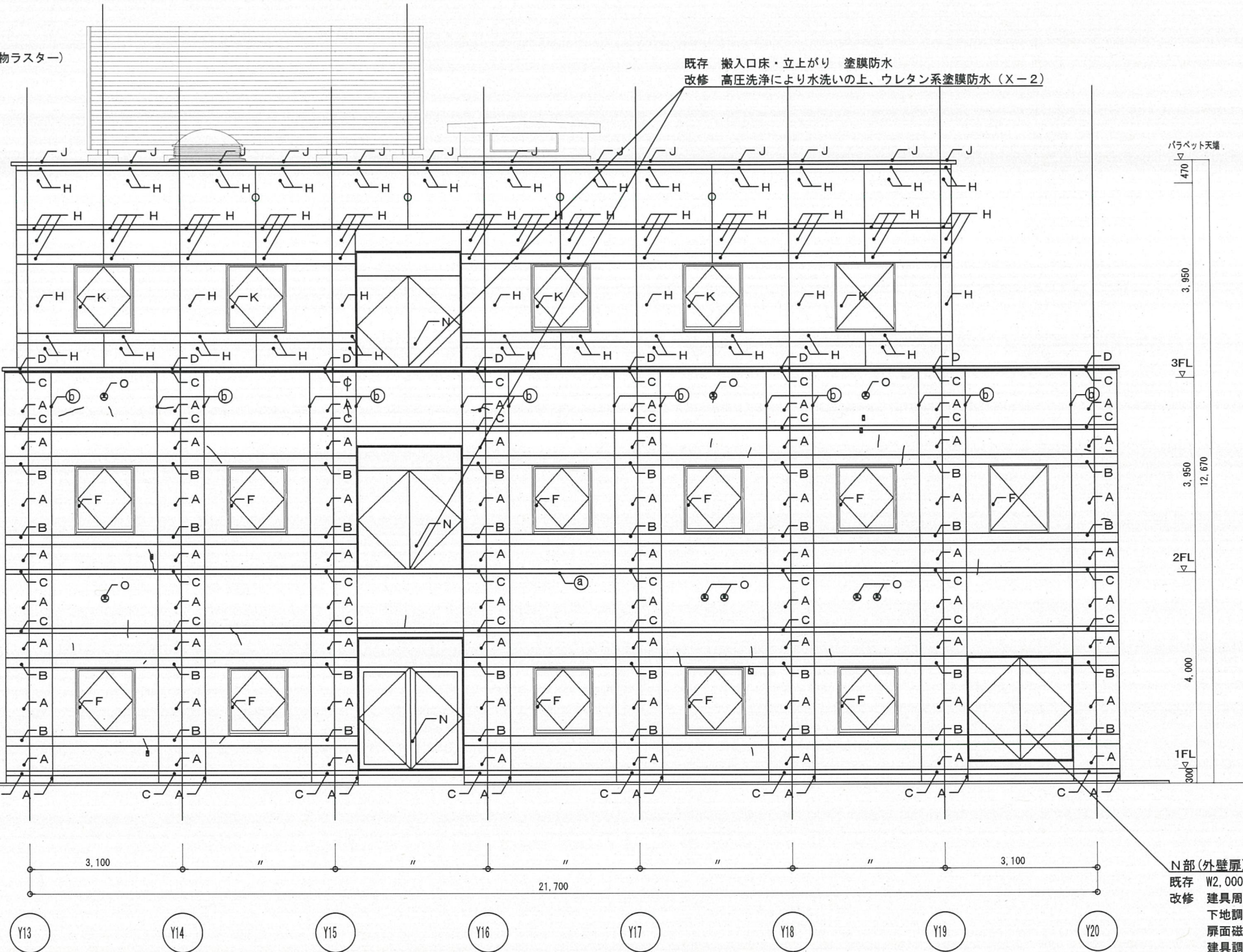
K部(アルミサッシ オープン窓)
既存 W1,220×H1,290×1箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
建具清掃(枠共)

N部(1階正面玄関鋼製扉)
既存 W2,162×H2,650 1ヶ所
改修 下地調整(RB種)の上 両面DP塗装(枠共)
建具調整共
ガラス両面 イオンデポジット除去(ウロコ落とし)

N部(2・3階搬入口)
既存 W2,162×H2,650 2ヶ所
改修 下地調整(RB種)の上 外面DP塗装(枠共)
建具調整共

O部(ベントキャップ)
改修 周囲シーリング打替え10×10
清掃

既存 搬入口床・立上がり 塗膜防水
改修 高圧洗浄により水洗いの上、ウレタン系塗膜防水(X-2)



N部(外壁扉)
既存 W2,000×H2,095 亜鉛メッキ鋼板 DP塗り
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
下地調整(RB種)の上 枠DP塗装
扉面磁器質タイル(グレー・ラスター)貼り
建具調整共

東立面図 S=1:100

特記: 補修位置は参考とし、外壁補修施工前に全面打診調査を行うこと。
タイル部分は補修後、高圧洗浄により水洗いすること。

参考図

	凡 例 外壁改修	凡 例 既存目地 (全て打替え)	—	ひび割れ補修ヶ所	凡 例 既存仕上 ↓ 改修仕上 及び 改修概要	A	45角磁器質タイル張り → ひび割れ・欠損・浮き部処理	H	アルミパネル<3.0> FU-BE(メタリック) → 撤去・点検・復旧
			▨	剥落・剥離補修ヶ所		B	同上模様入り(ラスタータイル)幅200(目地芯) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	I	コンクリート面仕上A種 FUE(メタリック) → EP-G(メタリック) 塗替
			▨	エフロ補修ヶ所		C	同上模様入り(ラスタータイル)幅100(目地芯) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	J	アルミ笠木 FU-BE(既製品)(メタリック) → 撤去・点検・復旧
			(a)	打継目地+タイル伸縮目地 5×10		D	アルミ笠木(既製品) → 撤去・点検・復旧	K	アルミサッシ FU-BE(メタリック) → パッキン交換
	凡 例 既存目地 (全て打替え)		(b)	誘発目地 5×7		E	45角磁器質タイル貼り 100x100x2(特注色) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	L	アルミガラリ FU-BE(メタリック)
			(c)	誘発目地 25×20		F	アルミサッシ シルバーアルマイト → 無目・建具清掃(ガラス共)	M	アルミパネル<2.0> FU-BE(メタリック) → 撤去・点検・復旧
						G	アルミガラリ シルバーアルマイト → 建具清掃	N	スチール 既存FE → DP塗替え

訂正 令和 年 月 日	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学					工事名	年度
	奈良先端 学際融合領域研究棟2号館等外壁改修その他工事					令和7年9月	
	課長 課長補佐 係長 専門職員 担当者					図面名称	縮尺 図面番号
						学際融合領域研究棟2号館(VBL棟) 東立面図	1:100 A-03

既存 嵌殺しガラリ W24, 046×H415×1箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
建具外面清掃

[illegible]

A・B・C・E部
既存 50角磁器質タイル張り。
改修 外壁補修(ひび割れ・欠損・浮き部補修)の上、
高圧洗浄(10MPa)

D・J部(アルミ笠木)
既存 アルミ 嵌合式
改修 笠木を一時撤去して、下地コンクリートの
点検を行う。
ひび割れや浸水等の異常がある場合は、
処置を行い、処理完了後、笠木を復旧する。

F部(アルミサッシ)
既存 3段引違い窓 W2,065×H2,665× 9箇所
嵌殺し窓 W2,065×H2,665× 1箇所
嵌殺し窓 W1,065×H2,665× 2箇所
オープン窓 W2,065×H2,665× 1箇所
オープン窓 W1,777×H2,665× 1箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
ガラス外面 イオンデポジット除去(ウロコ落とし)
無目カバーを取外し、無目内シーリング打替え
無目内の清掃後、復旧する。
建具外面清掃

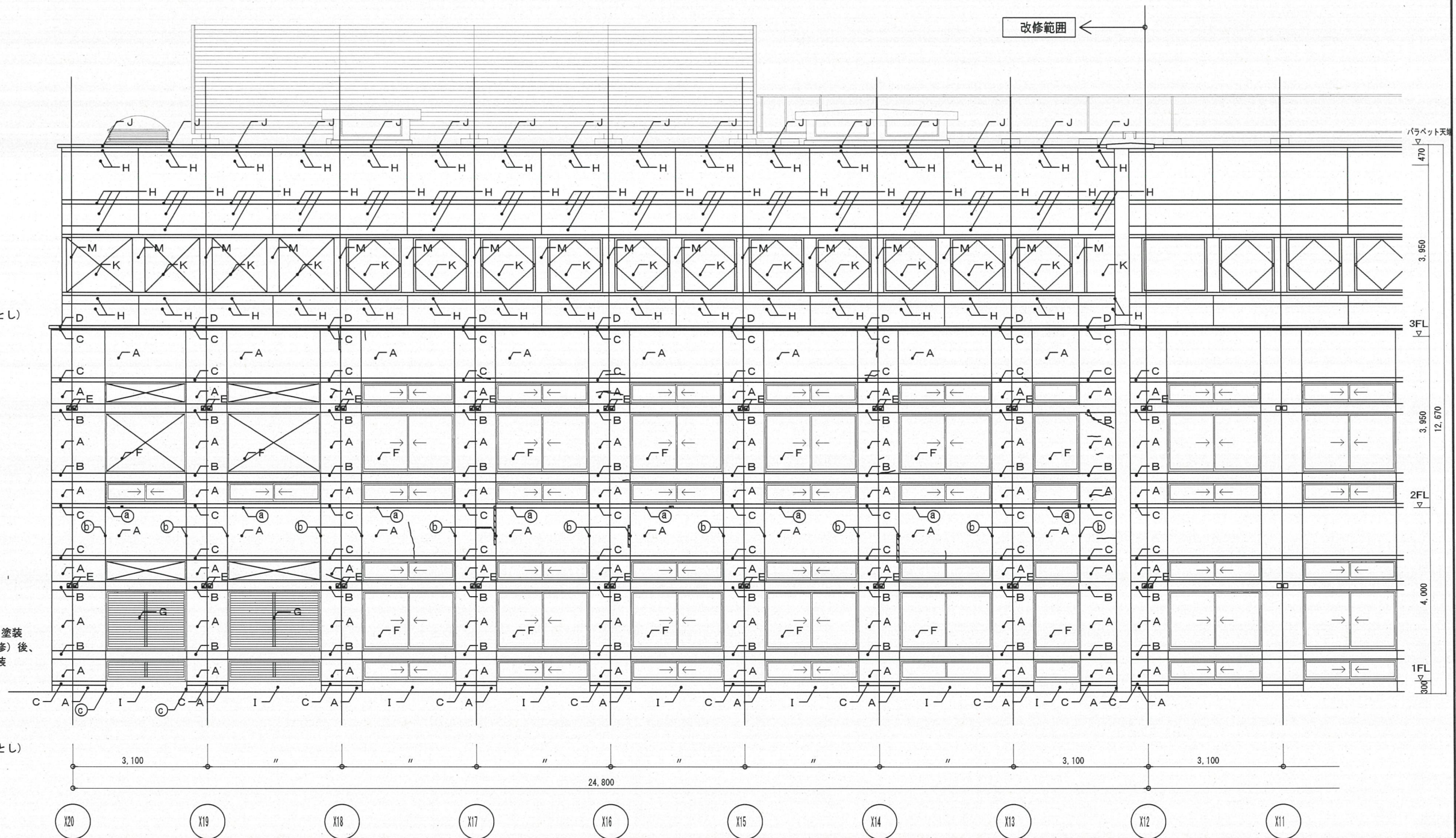
G部(アルミガラリ)
既存 嵌殺しガラリ W2,065×H2,665× 1箇所
嵌殺しガラリ W1,777×H2,665× 1箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
無目カバーを取外し、無目内シーリング打替え
無目内の清掃後、復旧する。
建具外面清掃

H・M部(アルミパネル)
既存 アルミフレーム下地の上、アルミパネル
改修 アルミパネルを一時撤去して、
下地コンクリートの点検を行う。
ひび割れや浸水等の異常がある場合は、
処置を行う。処理完了後、アルミパネルを
清拭し、復旧する。

I部
既存 コンクリート面仕上A種の上、FUE(メタリック)塗装
改修 高圧洗浄、外壁補修(ひび割れ・欠損・浮き部補修)後、
下地調整材(C-1)の上 EP-G(メタリック)塗装

K部(アルミサッシ 縦軸回転窓)
既存 W1,220×H1,292×11箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
気密パッキン交換
ガラス外面 イオンデポジット除去(ウロコ落とし)
建具清掃(枠共)

K部(アルミサッシ オープン窓)
既存 W1,220×H1,292×3箇所
W1,508×H1,292×1箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
建具清掃(枠共)



北立面図 S=1:100

特記：補修位置は参考とし、外壁補修施工前に全面打診調査を行うこと。
タイル部分は補修後、高圧洗浄により水洗いすること。

参考図

	凡例 外壁改修		ひび割れ補修ヶ所 剥落・剥離補修ヶ所 エフロ補修ヶ所	凡例 既存目地 改修目地 改修概要	A	45角磁器質タイル張り → ひび割れ・欠損・浮き部処理	H	アルミパネル<3.0> FU-BE (メタリック) → 撤去・点検・復旧
					B	同上模様入り(ラスタータイル)幅200(目地芯) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	I	コンクリート面仕上A種 FUE (メタリック) → EP-G (メタリック) 塗替
					C	同上模様入り(ラスタータイル)幅100(目地芯) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	J	アルミ笠木 FU-BE (既製品) (メタリック) → 撤去・点検・復旧
					D	アルミ笠木(既製品) → 撤去・点検・復旧	K	アルミサッシ FU-BE (メタリック) → パッキン交換
	凡例 既存目地 (全て打替え)		打継目地+タイル伸縮目地 5×10 誘発目地 5×7 誘発目地 25×20		E	45角磁器質タイル貼り 100x100x2(特注色) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	L	アルミガラリ FU-BE (メタリック)
					F	アルミサッシ シルバーアルマイト → 無目・建具清掃(ガラス共)	M	アルミパネル<2.0> FU-BE (メタリック) → 撤去・点検・復旧
					G	アルミガラリ シルバーアルマイト → 建具清掃	N	スチール 既存FE → DP塗替え

訂正 令和 年 月 日	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学	工事名 奈良先端大 学際融合領域研究棟2号館等外壁改修その他工事	年度 令和7年9月
	課長 課長補佐 係長 専門職員 担当者	図面名称 学際融合領域研究棟2号館(VBL棟) 北立面図	縮尺 1:100 図面番号 A-05

既存 50角磁器質タイル張り。鋼製建具上部は水切りタイル貼り(2面役物ラスター)
改修 外壁補修(ひび割れ・欠損・浮き部補修)の上、
高圧洗浄(10MPa)

既存 アルミ 飯合式
改修 笠木を一時撤去して、下地コンクリートの点検を行う。
ひび割れや浸水等の異常がある場合は、処置を行い、処理完了後、笠木を復旧する。

既存 W1, 220×H1, 292×10箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
気密パッキン交換
ガラス外面 イオンデポジット除去(ウロコ落とし)
建具清掃(枠共)

既存 W1, 220×H1, 292× 1箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
建具清掃(桧共)

既存
改修

アルミフレーム下地の土、アルミパネル
アルミパネルを一時撤去して、
下地コンクリートの点検を行う。
ひび割れや浸水等の異常がある場合は、
処置を行う。処理完了後、アルミパネルを
清掃し、復旧する。

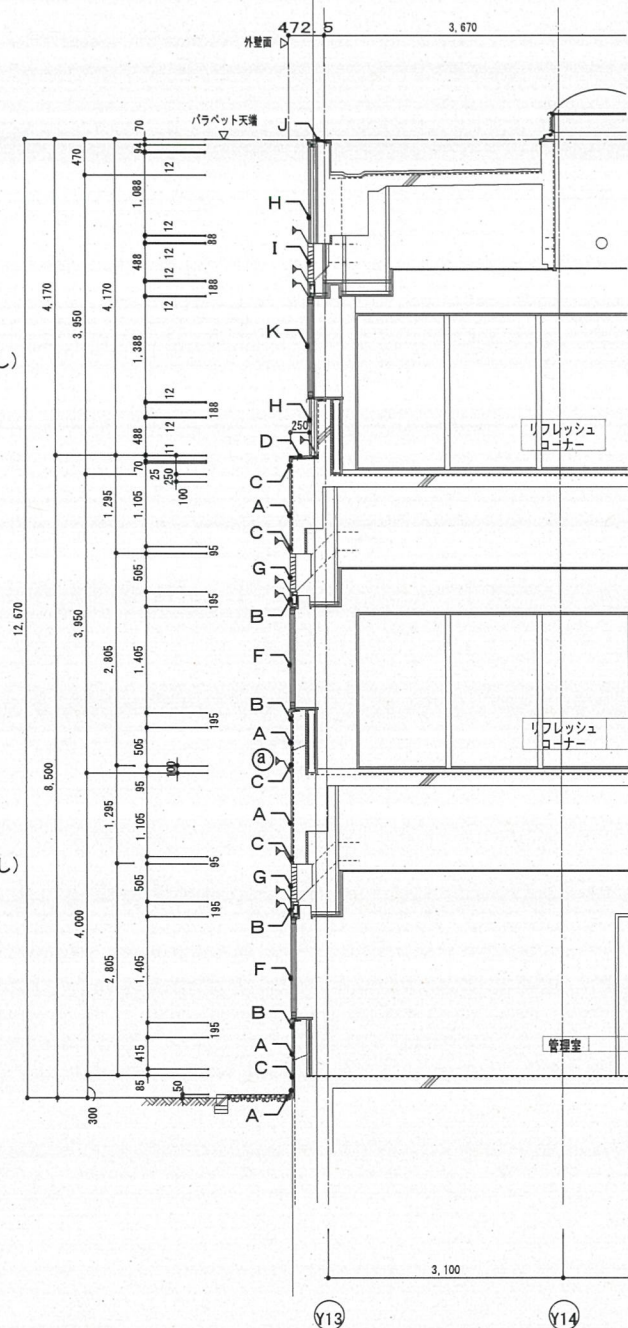
既存 W1, 220×H1, 290×4箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
気密パッキン交換
ガラス外面 イオンデポジット除去(ウロコ落とし)
建具清掃(桧共)

既存 W1, 220×H1, 290×1箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
建具清掃(桧共)

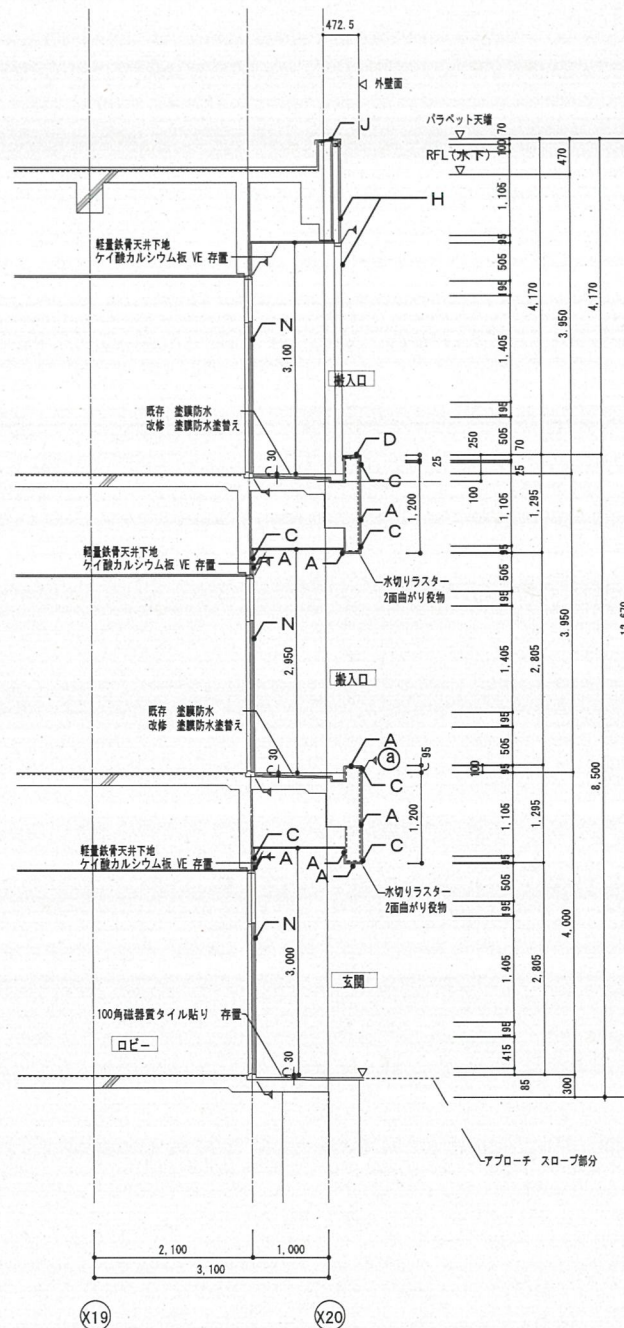
既存 W2, 162×H2, 650 1ヶ所
改修 下地調整 (RB種) の上 両面DP塗装 (枠共)
建具調整共

既存 W2, 162×H2, 650 2ヶ所
改修 下地調整 (RB種) の上 外面DP塗装(枠共)
建具調整共

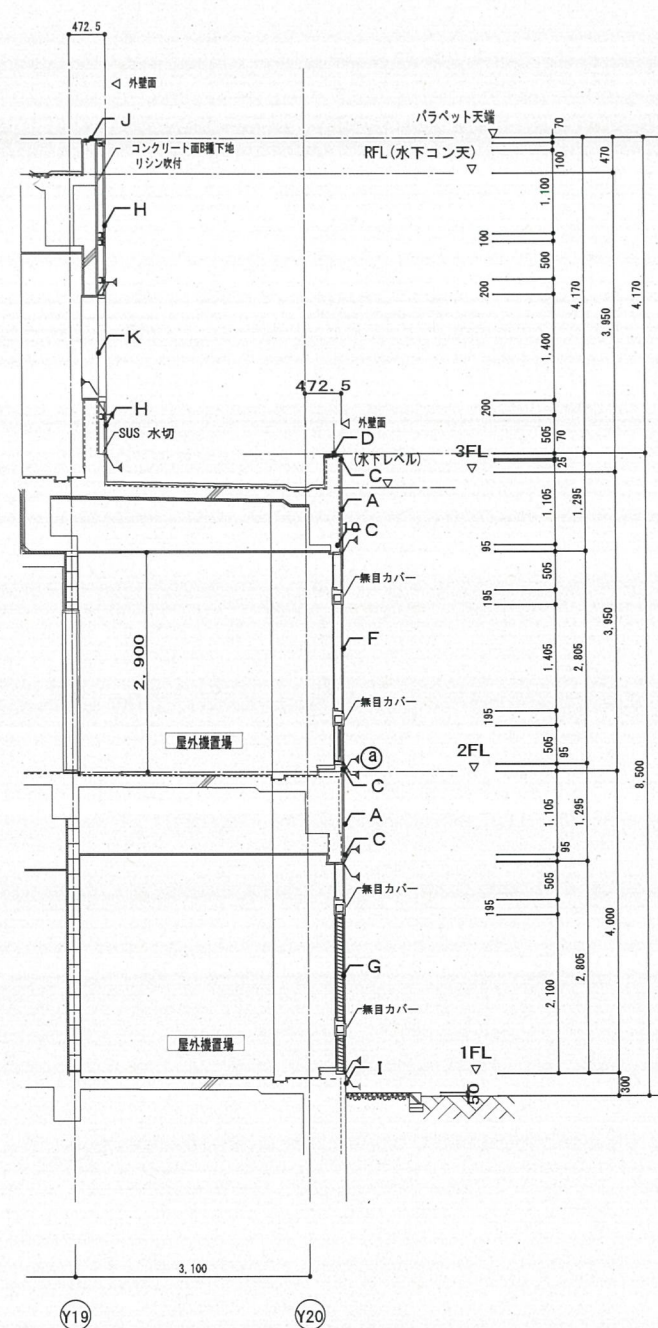
改修 周囲シーリング打替え10×10
清掃



A 断面図 南面(X19-X20)



B 断面図 東面(Y15-Y16)



C 断面图 北面 (X19-X20)

既存	3段引違い窓	W2,065×H2,665×9箇所
	嵌殺し窓	W2,065×H2,665×1箇所
	嵌殺し窓	W1,065×H2,665×2箇所
	オープン窓	W2,065×H2,665×1箇所
	オープン窓	W1,777×H2,665×1箇所
改修	建具周囲シーリング打替え	15×10
	ガラス外面	イオンデポジット除去(ウロコ落とし)
	無目カバー	を外し、無目内シーリング打替え
	無目内の清掃	と、復旧する。
	建具外面	清掃

既存 嵌殺しガラリ W2,065×H2,665×1箇所
嵌殺しガラリ W1,777×H2,665×1箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
無目カバーを取外し、無目内シーリング打替え
無目内の清掃後、復旧する。
建具外面清掃

既存 アルミフレーム下地の土、アルミパネル
改修 アルミパネルを一時撤去して、
下地コンクリートの点検を行う。
ひび割れや浸水等の異常がある場合は、
処置を行う。処置完了後、アルミパネルを
清拭し、復旧する。

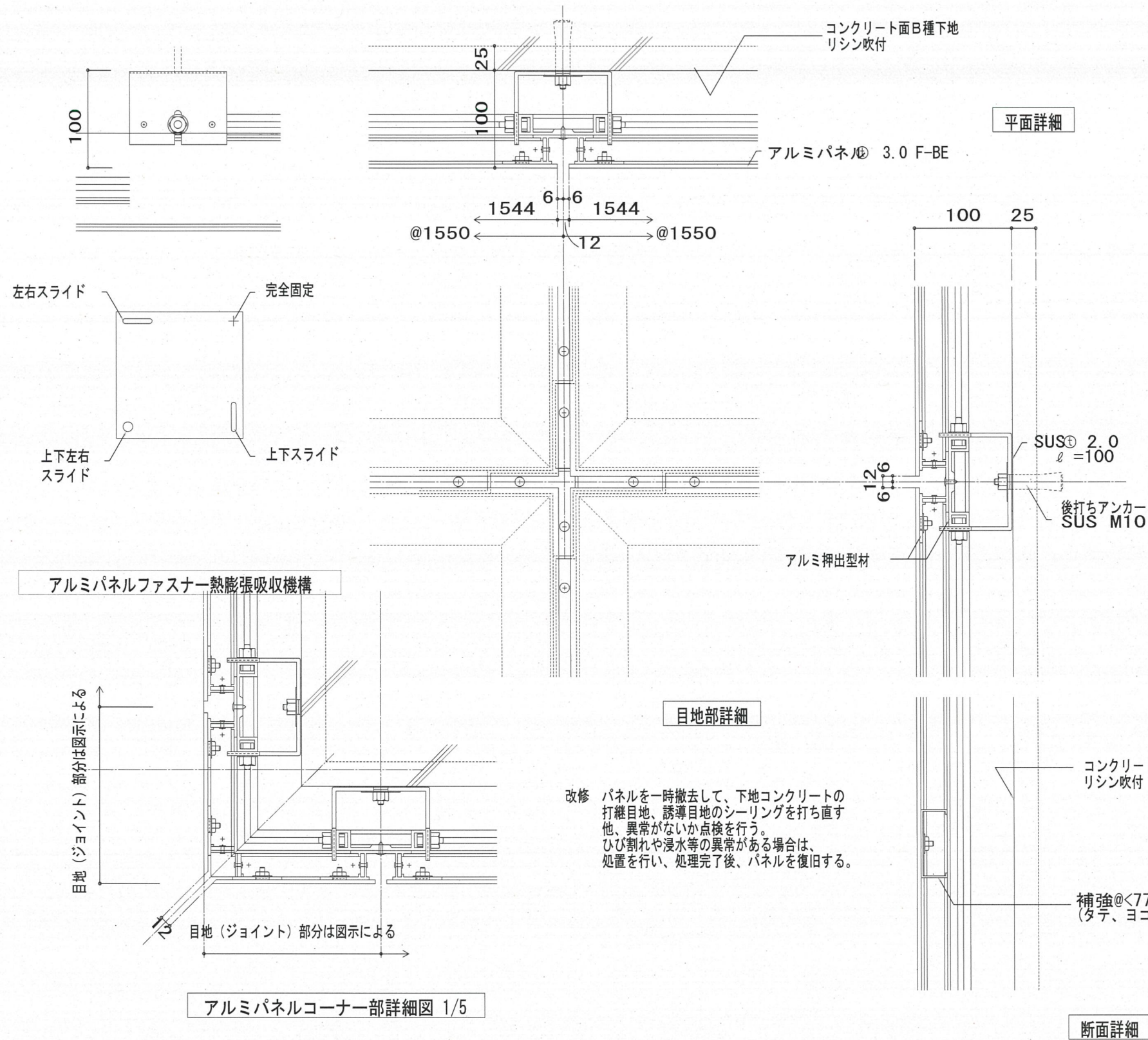
既存 コンクリート面仕上A種の上、FUE(メタリック)塗装
改修 高圧洗浄、外壁補修(ひび割れ・欠損・浮き部補修)後、
下地調整材(C-1)の上 EP-G(メタリック)塗装

既存 W1, 220×H1, 292×11箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
気密パッキン交換
ガラス外面 イオンデポジット除去(ウロコ落とし)
建具清掃(桧共)

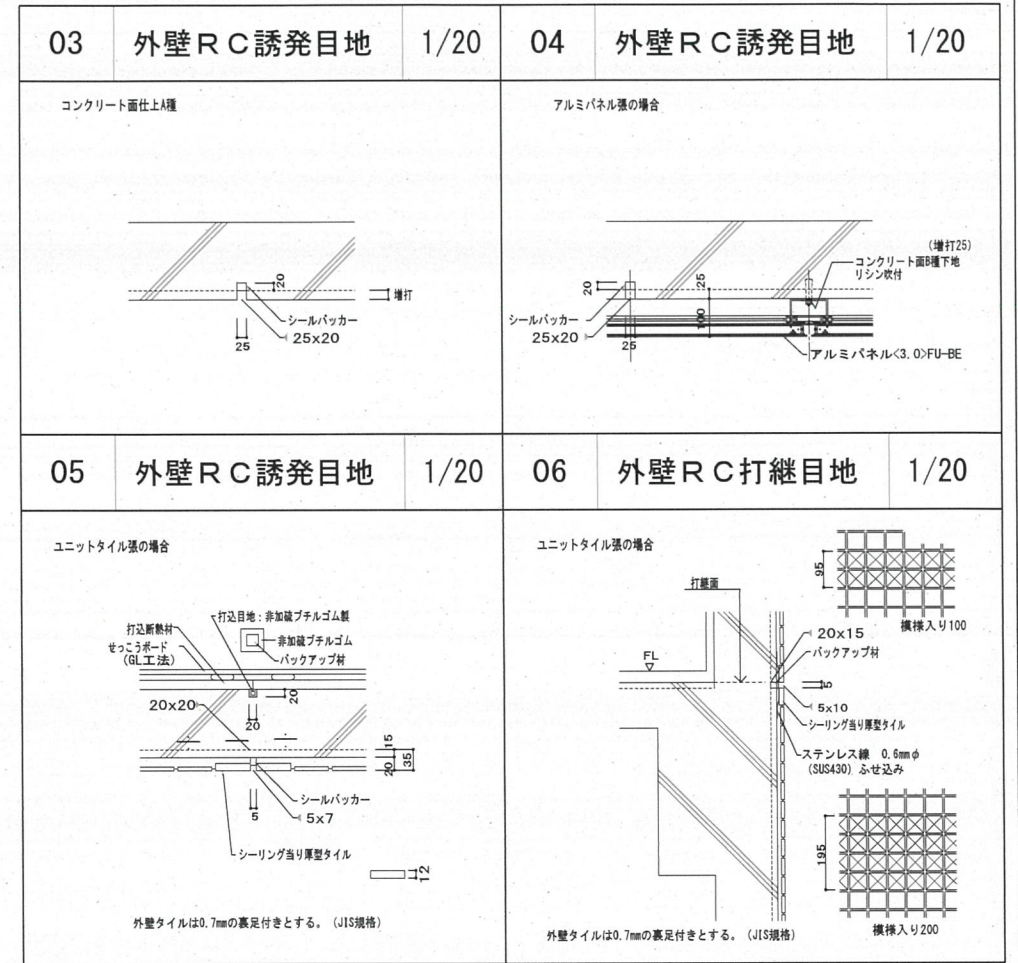
既存 W1, 220×H1, 292×3箇所
W1, 508×H1, 292×1箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
建具清掃(桧共)

<p>学際融合2号館</p> <p>事務局</p> <p>図書館</p> <p>学際融合領域棟2号館VBL棟 位置図</p>	凡 例	—	ひび割れ補修ヶ所	凡 例 既存仕上 ↓ 改修仕上 及び 改修概要	A	45角磁器質タイル張り → ひび割れ・欠損・浮き部処理	H	アルミパネル<3.0> FU-BE (メタリック) → 撤去・点検・復旧
	外壁改修		剥落・剥離補修ヶ所		B	同上模様入り(ラスタータイル)幅200(目地芯) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	I	コンクリート面仕上A種 FUE (メタリック) → EP-G (メタリック) 塗替
			エフロ補修ヶ所		C	同上模様入り(ラスタータイル)幅100(目地芯) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	J	アルミ笠木 FU-BE (既製品) (メタリック) → 撤去・点検・復旧
		凡 例			打継目地+タイル伸縮目地 5×10	D	アルミ笠木(既製品) → 撤去・点検・復旧	K
	既存目地 (全て打替え)		誘発目地 5×7		E	45角磁器質タイル貼り 100x100x2 (特注色) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	L	アルミガラリ FU-BE (メタリック)
			誘発目地 25×20		F	アルミサッシュ シルバーアルマイト → 無目・建具清掃(ガラス共)	M	アルミパネル<2.0> FU-BE (メタリック) → 撤去・点検・復旧
					G	アルミガラリ シルバーアルマイト → 建具清掃	N	スチール 既存FE → DP塗替え

[illegible]



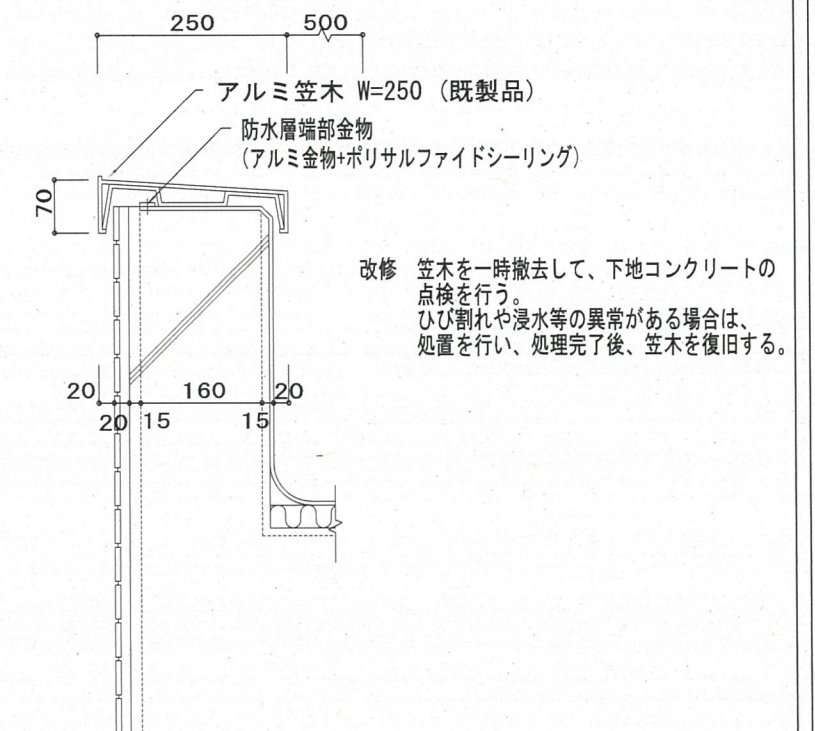
アルミパネルコーナ一部詳細図 1/5



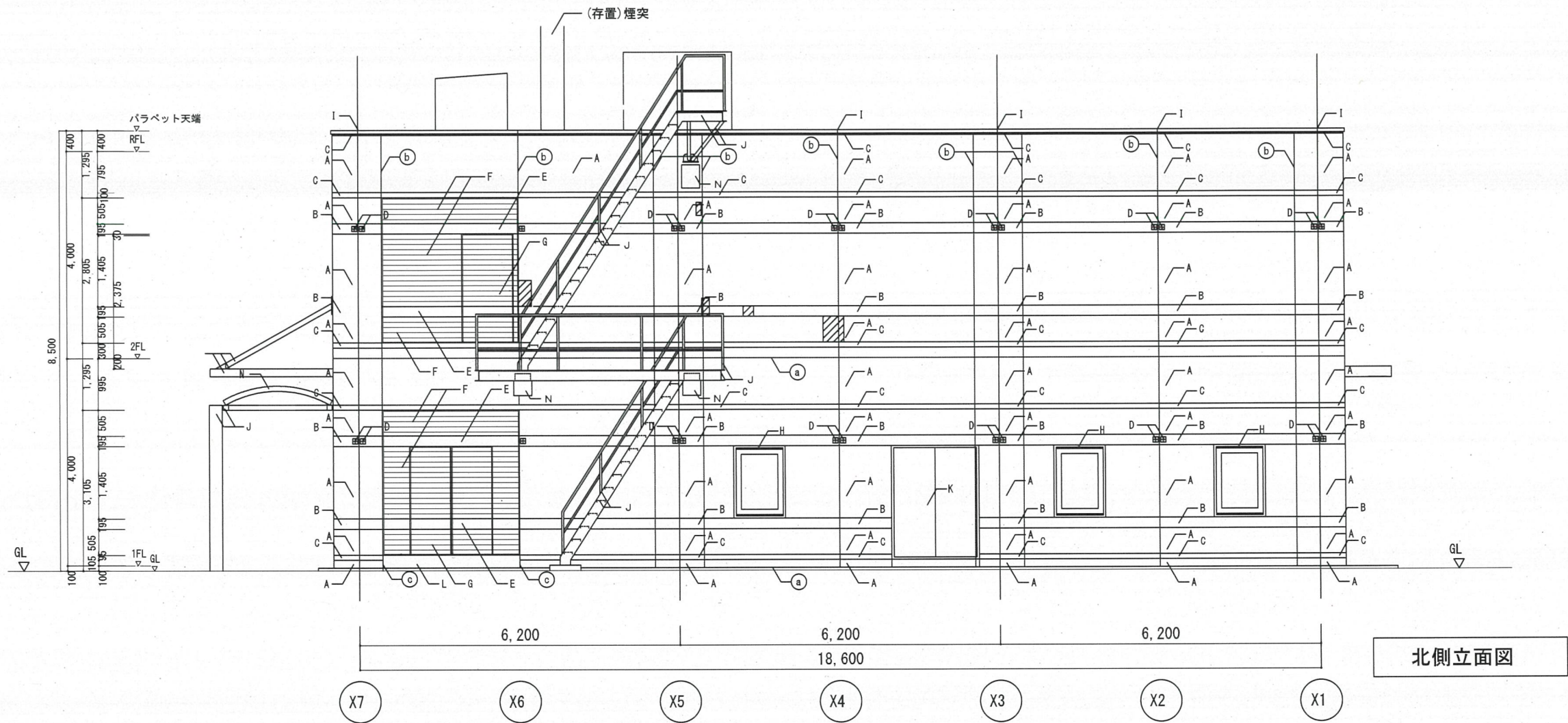
02

アルミ笠木 パラペット廻り

1/10



断面詳細



北側立面図

A・B・C・D部

既存 50角磁器質タイル張り。建具上部は水切りタイル貼り(2面役物ラスター)
改修 外壁補修(ひび割れ・欠損・浮き部補修)の上、高圧洗浄(10MPa)

G部(アルミルーバー扉)

既存 フラッシュ戸 アルミルーバー(シルバーアルマイト)仕上げ
改修 鉄部(骨組・丁番)を下地調整(RB種)の上 EP-G(メタリック)塗装
建具調整共

H部(アルミサッシュ)

既存 嵌殺し窓 W915×H1,375×3箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
ガラス外面 イオンデポジット除去(ウロコ落とし)

I部(アルミ笠木)

既存 アルミ FU-BE(メタリック)
改修 シール撤去後、笠木を一時撤去して、下地コンクリートの点検を行う。
ひび割れや浸水等の異常がある場合は、処置を行う。
処理完了後、笠木を復旧しシール処理を行う。

J部(屋外鉄骨階段)

既存 鉄骨階段
梁: コンクリートW350×H450
支柱: L-75×75×9
: ベースPL-12 250×250
: リブPL-12
ブレース: L-75×75×6
: リブPL-6×200×200
ササラ桁: [-200×80×7.5×11
床: CHPL-t4.5
根太 L-75×75×6
補強アングル L-50×50×6
踏面: CHPL-t4.5
手摺・支柱 38φ-2.3
横桟・手摺り子 32φ-2.3
改修 下地調整(RB種)の上 DP塗装

J部

既存 スチール フタル酸樹脂エナメル塗装
改修 下地調整(RB種)の上 DP塗装

K部(鋼製扉)

既存 W1600×H2470 1ヶ所
改修 下地調整(RB種)の上 両面DP塗装(枠共)
建具調整共

L部





既存 コンクリート面仕上A種
改修 高圧洗浄、下地調整材(C-1)の上 EP-G(メタリック)塗装

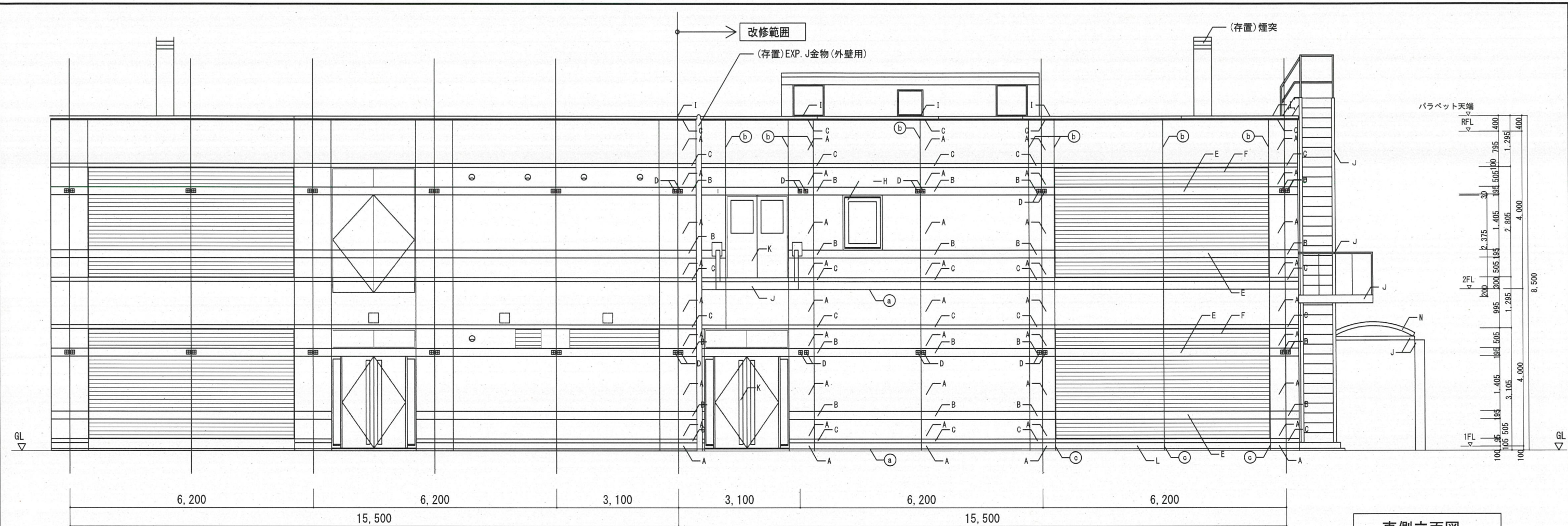
N部

既存 ポリカーボネート曲面
改修 改修 一時撤去後、再生処理(黄ばみ落とし後、ハードコート)を行い、再髹付け補修位置は参考とし、外壁補修施工前に全面打診調査を行うこと。
タイル部分は補修後、高圧洗浄により水洗いすること。

参考図

<div><div>動物実験施設</div><div>動物実験施設N棟 位置図</div></div>	凡 例 外壁改修	—	ひび割れ補修ヶ所	凡 例 既存仕上 ↓ 改修仕上 及び 改修概要	A	45角磁器質タイル張り → ひび割れ・欠損・浮き部処理	H	アルミサッシュ・ガラリ(シルバーアルマイト) → 建具清掃(ガラス共)
			剥落・剥離補修ヶ所		B	同上模様入り(ラスタータイル)幅200(目地芯) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	I	アルミ笠木 FU-BE(メタリック) → 撤去・点検・復旧
			エフロ補修ヶ所		C	同上模様入り(ラスタータイル)幅100(目地芯) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	J	スチール 既存FE → DP塗替え
	凡 例 既存目地 (全て打替え)		打継目地+タイル伸縮目地 5×10		D	45角磁器質タイル貼り 100x100x2(特注色) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	K	スチールドア 既存FE → DP塗替え
			誘発目地 5×7		E	アルミパネル(シルバーアルマイト)	L	コンクリート面仕上A種 FUE(メタリック) → EP-G(メタリック)塗替
			誘発目地 25×20		F	アルミルーバー(シルバーアルマイト)	M	ベントキャップ
					G	アルミルーバー扉 → 丁番EP-G(メタリック)塗装・建具調整	N	ポリカーボネート曲面貼 → 撤去・清掃・復旧

訂正 令和 年 月 日						国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学					工事名 奈良先端大 学際融合領域研究棟 2号館等外壁改修その他工事		年度 令和 7年 9月	
						課長	課長補佐	係長	専門職員	担当者			縮 尺	図面番号
													1:100	A-0
											図面名称 動物実験施設(N棟) 北立面図			



Y1 Y3 Y5 Y6 Y7 Y9 Y11

A・B・C・D部

既存 50角磁器質タイル張り。建具上部は水切りタイル貼り(2面役物ラスター)
改修 外壁補修(ひび割れ・欠損・浮き部補修)の上、高圧洗浄(10MPa)

H部(アルミサッシュ)

既存 嵌殺し窓 W915×H1,375×3箇所
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
ガラス外面 イオンデポジット除去(ウロコ落とし)

I部(アルミ笠木)

既存 アルミ FU-BE(メタリック)
改修 シール撤去後、笠木を一時撤去して、下地コンクリートの点検を行う。
ひび割れや浸水等の異常がある場合は、処置を行う。
処理完了後、笠木を復旧しシール処理を行う。

J部

既存 スチール フタル酸樹脂エナメル塗装
改修 下地調整(RB種)の上 DP塗装

K部(1階正面玄関鋼製扉)

既存 W2,150×H3,085 1ヶ所
改修 下地調整(RB種)の上 外面DP塗装(枠共)、ただし一部EP-G(メタリック)塗装
建具調整共
ガラス外面 イオンデポジット除去(ウロコ落とし)

K部(2階搬入口)

既存 W1,600×H2,360 1ヶ所
改修 下地調整(RB種)の上 外面DP塗装(枠共)
建具調整共

L部

既存 コンクリート面仕上A種
改修 高圧洗浄、下地調整材(C-1)の上 EP-G(メタリック)塗装

N部

既存 ポリカーボネート曲面
改修 一時撤去後、再生処理(黄ばみ落とし後、ハードコート)を行い、再取り付け

特記：補修位置は参考とし、外壁補修施工前に全面打診調査を行うこと。
タイル部分は補修後、高圧洗浄により水洗いすること。

参考図

<div>動物実験施設</div> <div>動物実験施設N棟 位置図</div>	凡 例	外壁改修	—	ひび割れ補修ヶ所	凡 例 既存仕上 ↓ 改修仕上 及び 改修概要	A	45角磁器質タイル張り → ひび割れ・欠損・浮き部処理	H	アルミサッシュ・ガラリ(シルバーアルマイト) → 建具清掃(ガラス共)
			▨	剥落・剥離補修ヶ所		B	同上模様入り(ラスタータイル)幅200(目地芯) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	I	アルミ笠木 FU-BE(メタリック) → 撤去・点検・復旧
			▨	エフロ補修ヶ所		C	同上模様入り(ラスタータイル)幅100(目地芯) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	J	スチール 既存FE → DP塗替え
	凡 例	既存目地 (全て打替え)	a	打継目地+タイル伸縮目地 5×10		D	45角磁器質タイル貼り 100×100×2(特注色) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	K	スチールドア 既存FE → DP塗替え
			b	誘発目地 5×7		E	アルミパネル(シルバーアルマイト)	L	コンクリート面仕上A種 FUE(メタリック) → EP-G(メタリック)塗替
			c	誘発目地 25×20		F	アルミルーバー(シルバーアルマイト)	M	ベントキャップ
						G	アルミルーバー扉 → 丁番EP-G(メタリック)塗装・建具調整	N	ポリカーボネート曲面貼 → 撤去・清掃・復旧

訂正 令和 年 月 日	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学					工事名	年度
	課長	課長補佐	係長	専門職員	担当者	奈良先端大 学際融合領域研究棟2号館等外壁改修その他工事	令和7年9月
						図面名称	縮尺 図面番号
						動物実験施設(N棟) 東立面図	1:100 A-09

